

本件に関するご連絡先：  
総合研究開発機構  
研究調査部  
主任研究員 豊田 奈穂  
Tel : 03-5448-1710

**N | I | R | A**

総合研究開発機構

扱い 2011年7月22日(金) 14時

NIRA モノグラフにて公表

## NIRA モノグラフシリーズ 『まちなか集積医療—事例調査から学ぶ—』

医師不足、公立病院の経営赤字など地域医療供給体制のあり方が問われている。その解決策として NIRA では医療とまちづくりを融合し、分散する医療資源を中心市街地に集積させるという「まちなか集積医療」を提言した。しかし、その実現にはこれまでの医療供給体制からの大胆な転換が求められるため、具体的なイメージがつかめずに次の一步が踏み出しにくいという声もきかれる。

そこで、今回、「まちなか集積医療」で何が得られ、どのような課題に直面することになるのか、中心市街地移転や病院統合に取り組む 6 つの病院を取り上げ、実現に向けて参考となる情報を得る。

### 利便性と医療の質でまちの拠点をつくる

寿泉堂総合病院 (Case1) は全国的にも珍しい住居併設型医療機関で、階下に病院がある安心感から 50 歳以上の入居者が多く、シニア層に支持された。鳥取生協病院 (Case2) では駅徒歩 10 分以内という立地条件の良さが患者や医療関係者から高い評価を得ている。中心市街地での病院立地は用地確保や跡地利用の課題はあるが、各方面からアクセス可能という利便性の良さが病院にとっての強みとなる。

他方、病院統合による大規模化では組織統合の課題があるものの、医療資源が集積することにより、医療の質の向上につながっている。山形県・酒田市病院機構 (Case3) では、統合にともなう人的資源の集約が医療の要である診療・看護体制の充実を実現させた。

また、これまで商業施設を中心に位置付けたまちづくりが進められてきたが、国保旭中央病院 (Case6) のように質の高い巨大病院は商業施設を上回る集客力を有しており、病院はまちの一大拠点ともなり得る。

● 調査事例

	病院名（機構名）	所在市	二次医療圏
Case1	寿泉堂総合病院	福島県郡山市	県中医療圏
Case2	鳥取生協病院	鳥取県鳥取市	東部医療圏
Case3	山形県・酒田市病院機構	山形県酒田市	庄内医療圏
Case4	北播磨総合医療センター	兵庫県小野市	北播磨医療圏
Case5	掛川市・袋井市新病院	静岡県掛川市	中東遠医療圏
Case6	総合病院国保旭中央病院	千葉県旭市	香取海 <sup>かい</sup> 匝 <sup>そら</sup> 医療圏

\*全文は NIRA ホームページでご覧いただけます。

NIRA モノグラフシリーズ『まちなか集積医療－事例調査から学ぶ－』

<http://www.nira.or.jp/pdf/monograph32.pdf>

NIRA 研究報告書『「まちなか集積医療」の提言－医療は地域が解決する－』（2010年3月）

[http://www.nira.or.jp/outgoing/report/entry/n100325\\_430.html](http://www.nira.or.jp/outgoing/report/entry/n100325_430.html)

**■総合研究開発機構（National Institute for Research Advancement）**

総合研究開発機構(NIRA)は、わが国の経済社会の活性化・発展のために大胆かつタイムリーに政策提言や政策課題の論点などを提供する民間の独立した研究機関です。学者や研究者、専門家のネットワークを活かして、公正・中立な立場から公益性の高い活動を行い、わが国の政策論議を一層活性化し、政策形成過程に貢献していくことを目指しています。研究分野としては、国内の経済社会政策、国際関係、地域に関する課題をとりあげます。

1974年政府認可法人として設立後、2007年財団法人を経て、2011年2月に「公益財団法人」に認定されました。

会 長：牛尾 治朗（ウシオ電機株式会社代表取締役会長）

理事長：伊藤 元重（東京大学大学院経済学研究科教授）

ホームページ：<http://www.nira.or.jp>